

課題名称 スキル・ディベロプメント分野の教育協力と経済発展に関する調査研究

実施機関 広島大学

課題代表者 吉田和浩

1. 目的（12P MSP ゴシック 太字）

低所得国にとどまっている途上国がもつ開発課題を克服する上で、需要が高いと思われる中等教育レベルのスキル・ディベロプメント協力に焦点を当て、改めて日本の成功要因（外部要因を含む）を整理し、日本の過去の国際協力を概観した上で、今日の途上国のスキル・ディベロプメント・ニーズを類型化することを通じて、同ニーズを満たす上での有効な留意点を整理する。

2. 活動

対象地域：低所得国を中心とする発展途上国および日本。

課題 1) スキル・ディベロプメントの範囲と本活動の範囲

課題 2) 日本の経済発展と人材育成に果たした教育の役割（中等教育レベル）

課題 3) 経済発展レベル・主要開発課題による今日の途上国の類型化

課題 4) スキル・ディベロプメント分野における日本の国際協力が何を指し、どのように実現したか

課題 5) (4)に対応し、異なる途上国経済が必要とする人材と教育が果たしうる役割

課題 6) まとめ・結論

活動方法：既存文献のレビュー、事例研究対象途上国の選定とその教育分野・経済分析、現地調査、活動実施者間の協議、途上国スキル・ディベロプメント分野の国際協力実務者や事例研究対象途上国における協力者・関係者および企業関係者との協議、比較検討・とりまとめ。

活動結果は協力者・関係者にフィードバックし、その結果と合わせて活動成果を報告書としてまとめる。

活動期間は平成 18 年度から平成 20 年度までの 3 年間。

3. 成果

(1) 期待する成果

先行調査研究で挙げられた成功要因が機能しえた周辺要因・環境を再確認し、これと今日の違いと共通点を明らかにする。また、各途上国の国内経済の構造的特徴、これを取り巻く経済環境は一様ではないことから、主要な途上国をスキル・ディベロプメント・ニーズの観点から類型化した上で、先述の周辺要因・環境と照らし合わせる。これにより、単に日本のスキル・ディベロプメント分野における教育協力経験を整理するだけでなく、今後の同分野における教育協力を実施するうえでの視座を提供することが可能になる。

(2) 成果物

調査報告書日本語版・要約英語版

出版『産業スキルディベロプメント』（協力者との共同成果）

スキル・ディベロフメント分野の教育協力と 経済発展に関する調査研究

広島大学

目的

低所得国の途上国が開発課題を克服する上で、需要が高い中等教育レベルのスキルディベロフメント協力に焦点を当て、改めて日本の成功要因、日本の国際協力を概観した上で、今日の途上国のスキル・ディベロフメント・ニーズを類型化することを通じ、同ニーズを満たす上での有効な留意点を整理



スキルディベロフメントとは

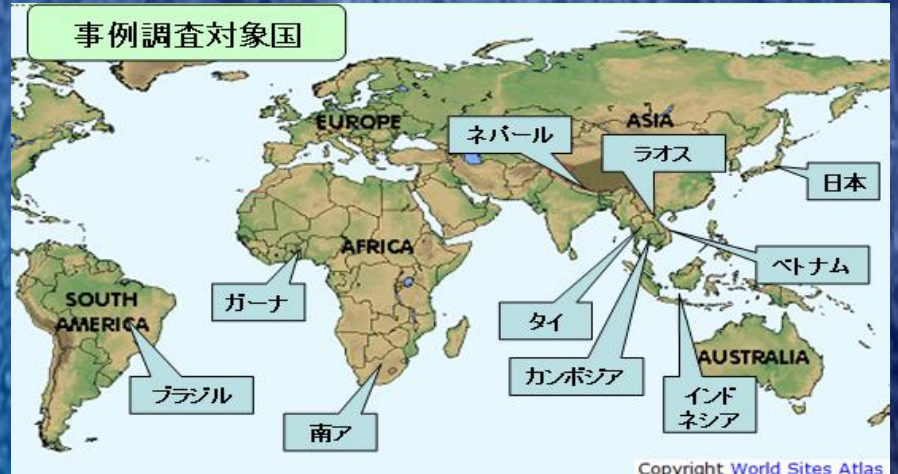
スキルは、知識と技術を用いる能力としての技能、スキルディベロフメントは、個人又は集団が経済活動において発揮することを目指してより高い技能を身につける行為あるいは過程



活動

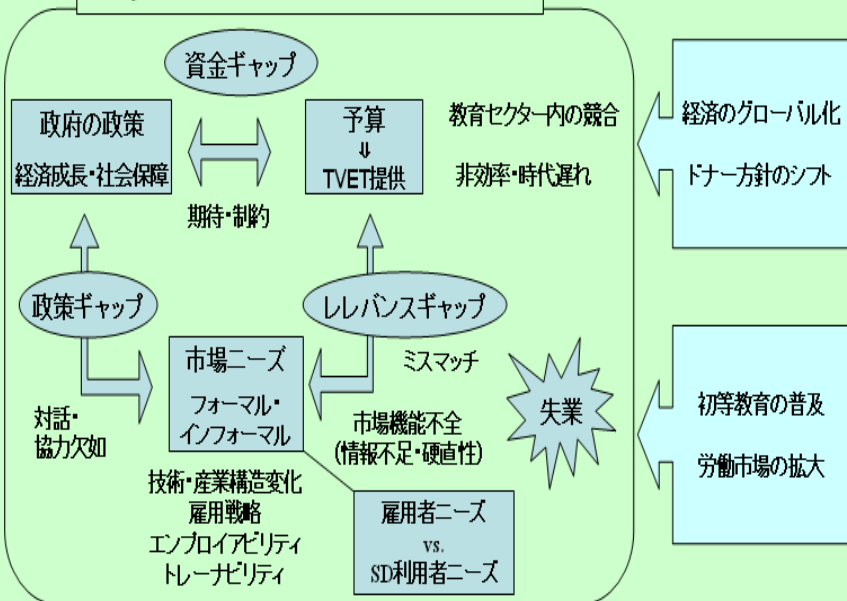
活動実施者+協力者のチーム結成 ⇒ 定義・活動範囲確定 ⇒ 文献レビュー ⇒ 現地調査事例研究 ⇒ ワークショップ・比較検討・まとめ ⇒ 報告書作成・フィードバック

事例調査対象国



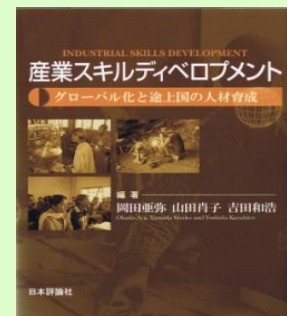
Copyright World Sites Atlas

公的スキル・ディベロフメント-3つのギャップ



成果

学会等での発表: 国際開発学会
日本比較教育学会、
途上国でのセミナー等開催
報告書日本語版・英語要約版
出版: 『産業スキルディベロフメント』



協力者との共同成果

**スキル・ディベロプメント分野の
教育協力と経済発展に関する
調査研究**

平成20年度国際協カイニシアティブ」
国内報告会
平成21年2月26日

広島大学
教育開発国際協力研究センター
吉田和浩



発表の流れ

1. 事業の目的
2. 事業の概要
3. 具体的な活動内容(今年度)
4. 成果:有効な産業SDのための検証モデル
5. 最終成果物に向けた進捗状況

1. 事業の目的

- 低所得国にとどまっている途上国がもつ開発課題を克服する上で、需要が高いと思われる中等教育レベルのスキル・ディベロプメント協力を焦点を当て、改めて日本の成功要因(外部要因を含む)を整理し、日本の過去の国際協力を概観した上で、今日の途上国のスキル・ディベロプメント・ニーズを類型化することを通じて、同ニーズを満たす上での有効な留意点を整理する。

3

2.1 事業の概要－調査研究課題

- 課題 1) スキル・ディベロプメントの範囲と本活動の範囲
- 課題 2) 日本の経済発展と人材育成に果たした教育の役割(中等教育レベル)
- 課題 3) 経済発展レベル・主要開発課題による今日の途上国の類型化
- 課題 4) スキル・ディベロプメント分野における日本の国際協力が何を指し、どのように実現したか
- 課題 5) (4)に対応し、異なる途上国経済が必要とする人材と教育が果たしうる役割
- 課題 6) まとめ・結論

今年度の
重点課題

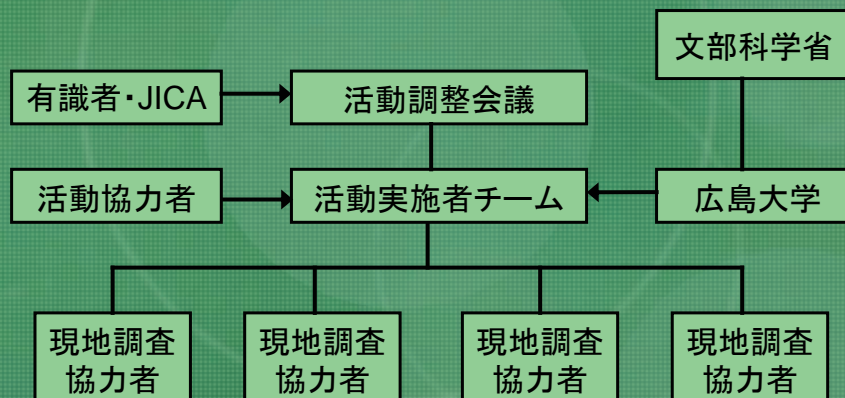
4

2.2 事業の概要－ 活動実施者

活動実施者	所属	活動協力者	所属
岡田亜弥	名古屋大学	大野健一	政策研究大学院大学
小川啓一	神戸大学	森純一	UNIDO
草郷孝好	大阪大学	森田敦郎	大阪大学・
小池洋一	拓殖大学	山田肖子	名古屋大学
長尾真文	国際基督教大学	その他	
廣里恭史	名古屋大学 (現アジア開発銀行)	海外協力者	
吉田和浩	広島大学	多数	

5

2.3 事業の概要－ 活動体制



6

3. 今年度の活動

- 第5回活動調整会議の開催(6月2日)
 - ◆ 昨年度活動の報告・評価者のコメント
 - ◆ 今年度の活動計画
- 日本比較教育学会での発表(6月28日、於東北大学)
- 『産業スキルディベロプメント』出版(8月、日本評論社)
(協力者との共同成果)
- 現地調査の実施、関連情報の収集
 - ◆ ネパール(9月15-25日、草郷先生)
 - ◆ ガーナ(9月19-28日、吉田)
 - ◆ ラオス(12月10-16日、小川先生)
 - ◆ カンボジア(12月22-30日、岡田先生)
- 国際開発学会での発表(11月23日、広島修道大学)
- 第6回活動調整会議最終報告会(2月23日予定)

7

4. 成果

有効な産業スキルディベロプメント
のための検証モデル

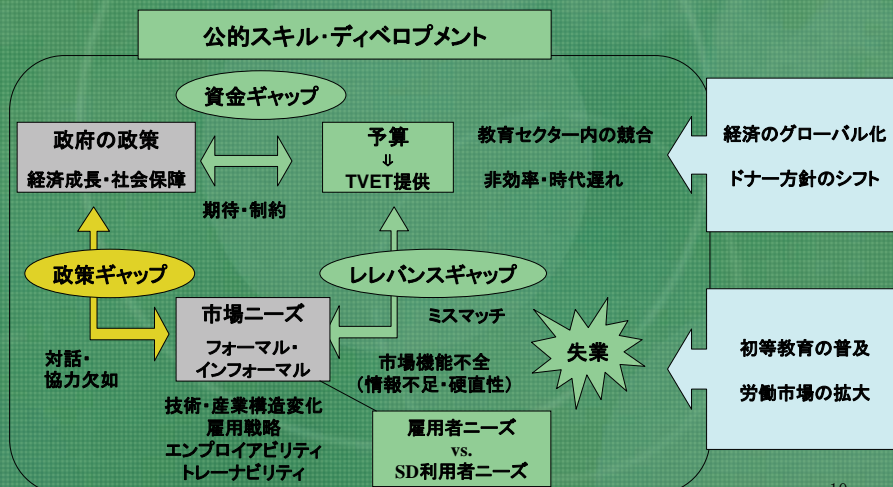
8

4.0 途上国のスキル・ディベロプメント 分析の枠組み (報告書総括サマリーから)

1. スキル・ディベロプメントを巡る周辺環境
<国内要因> <国外要因>
2. 産業構造
 - 産業構造の転換状況
 - 現在、将来の成長部門、労働生産性
 - 産業、投資家の人材ニーズ、他国と比べての比較優位
3. 労働力の量と質
4. スキル・ディベロプメントの提供
 - スキル・ディベロプメントの提供者、内容
 - 「3ギャップ・モデル」に基づく検証
 - 「途上国類型化モデル」に基づく検証
5. 教訓の整理
 - 政府のスキル・ディベロプメント政策・施策からの教訓
 - 国際協力によるスキル・ディベロプメント事業からの教訓
6. 総合化・戦略化
 - 上記項目のマクロレベル、産業特殊レベルでの検討結果の総合化
 - 産業界等ステイク・ホルダーズとの協議

9

4.1 公的SD — 3つのギャップ



10

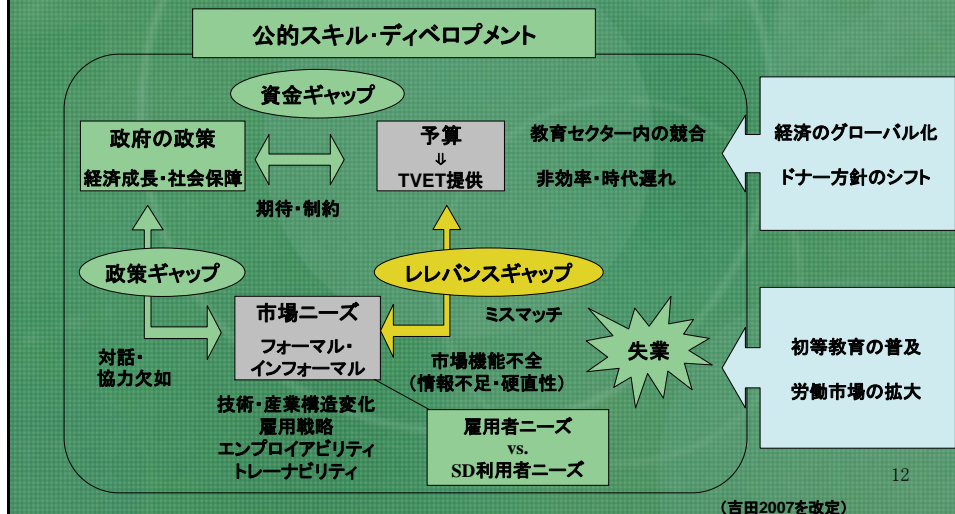
(吉田2007を改定)

4.1 政治的コミットメントと一貫性のあるSD政策

- SSA:経済成長アプローチと社会保障アプローチの二兎を追う
 - ⇒政策のブレ
 - 産業界・TVET利用者のニーズに対応できず
- 東アジア:持続的成長の下、労働集約型から高付加価値産業への移行に伴うスキル需要に「効果的に」対応
 - 両アプローチ間に連続性

11

4.2 公的SD – 3つのギャップ



4.2 変化する労働市場の人材 ニーズに適応するSDの提供

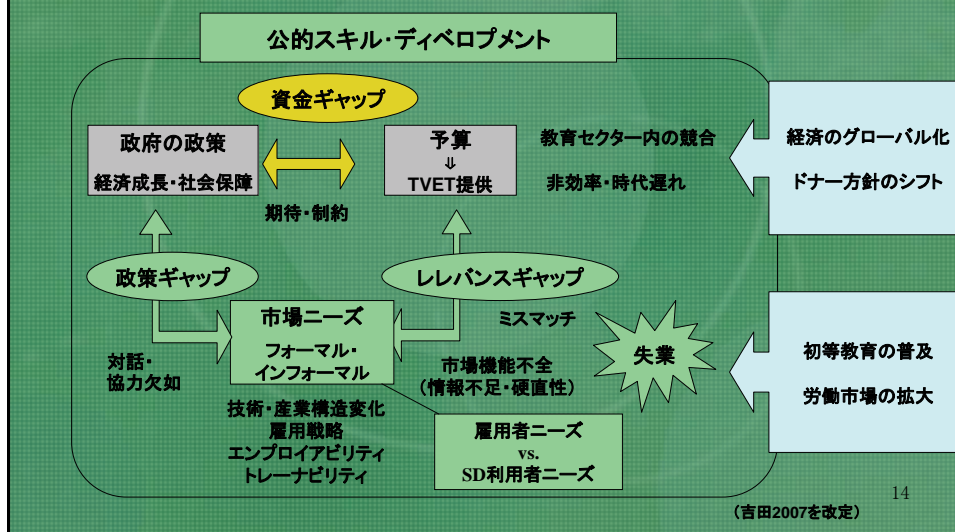
- カリキュラム、機材の継続的アップデート
- 産業界—TVET提供者—監督機関の間に協力的関係



- TVET—失敗者の選択
- 雇用情報制度の未整備
- TVET経路の高等教育との断絶

13

4.3 公的SD — 3つのギャップ

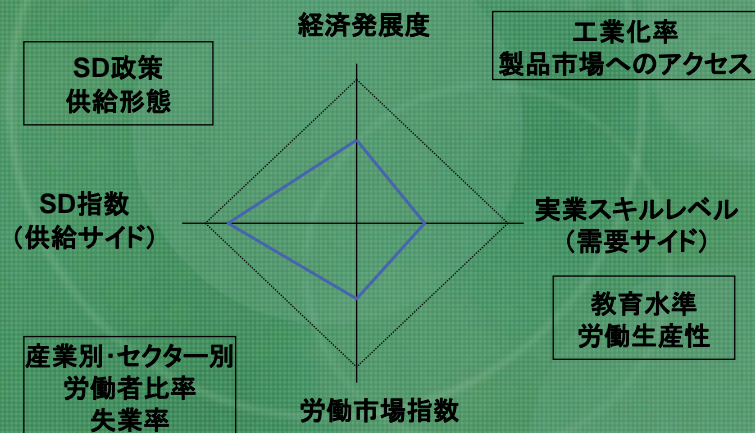


4.3 ニーズの変化に対応したSDを可能とする資金の確保

- 限られた予算配分・割高なコスト
 - 初期投資・更新とも
 - 古い機材、古い技術
 - 利用者負担の限界
 - 一部、訓練税の導入も(マリ、タンザニア他)
- 産業界との連携の弱さ

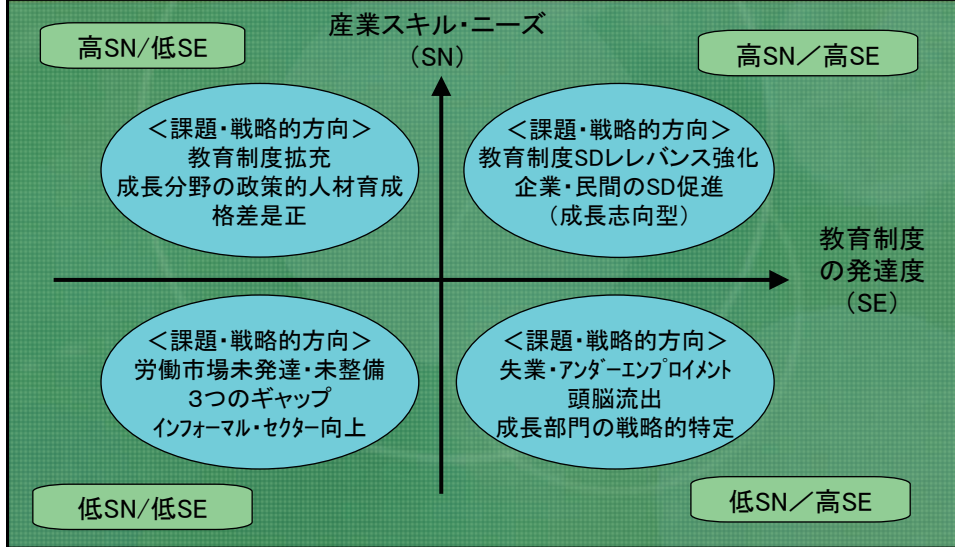
15

4.5 途上国の類型化(初年度モデル)

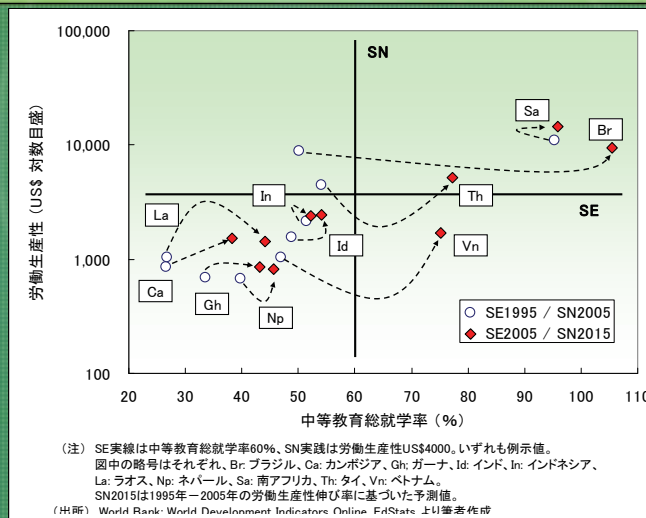


16

4.6 スキルニーズ、教育制度普及とSD (例示)



4.6b 途上国の類型化(SN/SEモデル)



5. 最終成果物に向けた進捗状況

- 低所得国における公的SDの期待と現実の乖離、その有効性検証の視点を提示する。
- 類型別SD戦略の方向性と、今後の国際協力への示唆を導き出す。
- 最終活動調整会議での議論の集約(2月)
- 報告書作成(日本語版、サマリー英語版)配布(3月)